

事業計画書

①団体名	備中町並みネットワーク
②事業名	備中で暮らす・町家deクラス2026
③テーマ区分	番号：9
④補助回数	<p>*同一事業における補助回数（年数）について、いずれかにチェック</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 1回目 <input type="checkbox"/> 2回目</p>
⑤現状及び課題	<p>備中町並みネットワークの設立と現状そして課題</p> <p>・2004年前後に県民局の支援で組織された地域づくり交流会の活動がその後各団体での活動に重点が置かれるようになり始めた2012年、NPO法人全国町並み保存連盟から倉敷での全国大会（2013年開催）の打診があり、それを受ける形で地域づくり交流会の団体のうち町並み保存の活動団体を中心に倉敷だけでなく備中地域での大会の開催を進める実行委員会を結成、それを機会に備中町並みネットワークを結成した。</p> <p>・ネットワークの活動実績と成果：高梁川流域という水の生命流域圏内での循環型構造（環境・経済・社会）が育まれた、まち、むらの町並み保存と暮らしの文化を次世代に引き継ぐ活動と交流及び情報交換のためのネットワークである。詳細（実績と活動）は応募書類を参照の事。</p> <p>・2014年から「町家でクラス」を開催、まち歩きや町家での暮らし体験活動を続けており、数年前からはユース世代も巻き込んだプログラム作りも進めている。参加者の評価はどのプログラムも高評価ではあるが、定員になるものもあれば、参加者が少人数のプログラムもあり、広報とプログラムの内容に課題がある。</p> <p>・町家・町並みの維持と地域文化の継承は困難が伴う。法的な枠組みのある倉敷川畔、矢掛、吹屋の国の重要伝統的建造物群保存地区では町家・町並みは守られているが、そうでない地域は、県や自治体の保存制度や地域の自助努力と官民協働の位置付けが必要であると同時に、人材不足や認識の共有への対応が必ずしも進んでいるわけではない。</p> <p>・・</p> <p>地域の課題とネットワークの対応</p> <p>・高梁川流域（備中地域）でも都市化による周辺部および中山間地の人口減少と高齢化やその他機能の不足による地域の環境、経済、社会の維持の困難さがさまざまな分野で顕在化している。特に自然環境の維持に関しては、気候変動を考えると早急なさまざまな対策を講じなければならない。</p> <p>・戦後から長く続く産業・経済構造の変化による不均衡な現状に対して簡単に中山間地への移住や機能分散が可能なわけではない。</p> <p>・町並み保存活動では世代交代期に様々な変化が起ることが知られており、地域活動においても同様の変化が起きる。戦後すでに3世代の交代期を経験し、農村部、地方都市部での人口移動が止まらない。その結果として中山間地の担い手不足が深刻であることは周知の事実であるが、具体的な政策や地域活動が追いつかない。</p> <p>・2024年から「町家でクラス」に「備中で暮らす」をテーマに加え農に関わる暮らしの体験イベントを始めた。2025年度に1箇所です験的に実施した農業体験プログラム（種蒔き・地元食・農業者との対話）では、参加後も継続的に地域と関わりを持つ参加者が複数生まれた。この設計を2026年度は備中5箇所で展開する。</p> <p>・・</p> <p>・活動継承のための次世代・ユース世代の人材育成が今後のまちづくりの大きな課題だと考え、高校生の探求学習、大学生のPBLのテーマの現場として活動をしてほしい。</p>
⑥事業目的	<p>町家でクラスの狙いは、「知らないことは伝えられない」がきっかけである。戦後ライフスタイルの変化が始まり、町家、町並みの多くは破壊されるか、自ら変容するかを選択された。その中で空間の変容から、地域で育まれた暮らし文化も変容せざるを得なかった。このような空間の変化とライフスタイルの変容は町家での暮らしを一気に変え、戦後世代が体験できていない町家・町並みでの暮らしは次の世代へ伝えることを目的にしている。</p>

	<ol style="list-style-type: none"> 1. (暮らし文化の継承) 町家・町並み保存とそこに古くから継承されてきた暮らしの文化を次世代に継承する。 2. (生命流域圏の関係人口作り) 近年の都市問題は広く中山間地・農村との関係を含め、持続可能な経済・環境・社会を継続するための最も身近で地域的なスケールが流域圏である。自治体を超えて都市居住者の農村・中山間地との関わりを生むためのきっかけとして、町家・町並み・古民家とその暮らしを楽しむためのプログラムに参加することで、地域の魅力と課題に触れ、人がつながり新たな都市住民との関係を作ることとする。 3. (都市住民が担う新たな農林業の仕組み) 生産と自然環境維持を含めた農林業の仕組みに都市住民が関わることで農林業の持続可能な仕組みを支援する。 4. (流域圏内でのサードプレイス作り) 農山村への移住や関わりを持つことは簡単なことではない。流域圏内での農山村と都市部の交流の場作りのきっかけを考える。農山村住民が都市部でのサードプレイス、都市部の住民は農山村で居心地の良いサードプレイスが持てる備中地域を目指す。 5. (次世代人材育成) 町並み保存と町家の再生と伝統的な暮らし文化の継承が、家庭やコミュニティで身近なコト、モノ、トキとして体験しづらくなっている。一方ユース世代ならではの視点で伝統的な空間での暮らし文化の楽しみを見出している。そこでユース世代の視点で文化継承の取り組みや、新たな視点での暮らし文化や伝統的な空間の楽しみ方、価値を伝える。現世代とユース文化がまちな出る機会を作る。
<p>⑦事業内容</p>	<p>※備中県民局補助対象事業について、位置づけ(狙い)、概要、受益者(対象者)、実施地域、実施方法などを記載すること</p> <p>タイトル：備中で暮らす・町家deクラス2026</p> <p>備中圏域の歴史的環境(町家・町並み・暮らし文化・歴史など)の資源を使って、地域の生活文化や町並み、町家、自然環境の魅力を再発見し、参加者とプログラム運営の地域の方々をつながりを作り出す。</p> <p>テーマ</p> <p>1 (暮らし文化の継承) 地域での伝統的な食をテーマにした味噌づくり、発酵食品づくり、町家改修のワークショップ、丁寧な暮らしの実践として金継ぎの技術講座、地域の素材を使った工芸品づくり、街歩きを通しての地域の歴史の学びなど</p> <p>2 (生命流域圏の関係人口作り) 3 (都市住民が担う新たな農林業の仕組み) 4 (流域圏内でのサードプレイス作り) 2～4までのテーマを横断する内容で「流域圏で種を蒔く1日」の農業体験プログラムを実施、内容は別紙参照。</p> <p>5 (次世代人材育成) 探求学習、PBLなどで町家・町並みの価値を知る、課題を考えるプログラム作成。</p> <p>.....</p> <p>上記のプログラム実施場所をサードプレイスとして、また来てみたい場所として位置付けしたい。</p> <p>実施地域：備中地域全域 実施時期：2026年11月(1ヶ月間)</p> <p>*天災地変、感染症等で事業が実施できない場合の対応 緊急情報が出た場合はプログラムを中止する。</p>

⑧事業の条件及びポイント	先進性、先駆性、独創性									
	<p>・地域の環境、産業、社会の変化が激しく「備中で暮らす・町家deクラス」を5つのテーマに沿ってプログラムを作る。</p> <p>・1ヶ月間のプログラムの中で5つのテーマ（暮らし文化の継承）（生命流域圏の関係人口作り）（都市住民が担う新たな農林業の仕組み）（流域圏内でのサードプレイス作り）（次世代人材育成）のさまざまな体験で地域を知り、関わりができ交流も生まれる。また運営団体の協力のもと、今後対応しなければならない都市と農山村部の交流生み出すために、新しい視点で活動を進めるためにこのプログラムを作る。</p> <p>・テーマは今後の地域再生のいくつかの選択肢だと確信している。</p> <p>・これらは十数年のネットワークの連携と情報交換、交流があればこそ作れるものである。先進性、先駆性、独創性という視点ではなく今地域に必要なプログラムだと考えている。</p>									
	備中地域への波及効果									
	<p>備中地域の町並み保存の団体がこのように集まっていること自体が成果である。さらに、新たな各種地域活性化団体、教育機関などとの連携を進めることで視野を広げ新たな活動が始まることを期待したい。備前、美作地域でもこのようなネットワークができ、全県的なネットワークになることを夢見ている。</p>									
⑨今年度の事業による直接の結果（アウトプット）及びその評価指標・評価方法	その他、団体の持つ専門性やノウハウ等									
	町家再生、町並み保存、まちづくり、まち案内、町家の調査									
※事業が複数の場合は、事業ごとに分けて記載	<p>備中でクラス・町家deクラス2026（全40プログラム）（学生連携プログラムを含む）</p> <p>町家での暮らし体験プログラム・・・20プログラム</p> <p>まち歩き、みち歩きプログラム・・・15プログラム</p> <p>備中で暮らす体験およびサードプレイスプログラム・・・5プログラム</p> <p>参加予定人数350名</p>									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価指標</th> <th>評価方法</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者人数の達成度</td> <td>計画に対する割合</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>参加者アンケート</td> <td>5段階方式</td> <td>4点以上</td> </tr> </tbody> </table>	評価指標	評価方法	目標	参加者人数の達成度	計画に対する割合	100%	参加者アンケート	5段階方式	4点以上
	評価指標	評価方法	目標							
	参加者人数の達成度	計画に対する割合	100%							
参加者アンケート	5段階方式	4点以上								
<p>事業参加者</p> <p>1（暮らし文化の継承）</p> <p>2（生命流域圏の関係人口作り）</p> <p>3（都市住民が担う新たな農林業の仕組み）</p> <p>4（流域圏内でのサードプレイス作り）</p> <p>5（人材育成）</p> <p>1（暮らし文化の継承）</p>										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価指標</th> <th>評価方法</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>体験後誰かに伝えたい</td> <td>5段階アンケート</td> <td>4点以上</td> </tr> </tbody> </table>	評価指標	評価方法	目標	体験後誰かに伝えたい	5段階アンケート	4点以上				
評価指標	評価方法	目標								
体験後誰かに伝えたい	5段階アンケート	4点以上								
⑩今年度に期待される成果・効果（短期アウトカム）及びその評価指										

<p>標・評価方法</p> <p>※事業が複数の場合は、事業ごとに分けて記</p>	2 (生命流域圏の関係人口作り)		
	評価指標	評価方法	目標
	都市と農村の関係人口の一員に加わった	流域圏との繋がり意識変化5段階アンケート	4点以上
	3 (都市住民が担う新たな農林業の仕組み)		
	評価指標	評価方法	目標
	次回プログラムへ参加したい	5段階アンケート	4点以上
	4 (流域圏内でのサードプレイス作り)		
	評価指標	評価方法	目標
	また行きたいと思った	5段階アンケート	4点以上
	5 (人材育成) ※ユース世代が関わったプログラム		
評価指標	評価方法	目標	
新しい視点で地域を体験できた	5段階アンケート	4点以上	
事業実施団体			
<p>1 (暮らし文化の継承)</p> <p>2 (生命流域圏の関係人口作り)</p> <p>3 (都市住民が担う新たな農林業の仕組み)</p> <p>4 (流域圏内でのサードプレイス作り)</p> <p>5 (人材育成)</p> <p>6 参加事業者間での情報流通と新しい仕組み、プログラムの発見、開発、</p>			
	評価指標	評価方法	目標
	人材育成や関係人口作りの新しいプログラム	目標に対するプログラム数	3プログラム
備中地域			
7. 事業実施に賛同する新たな団体が参加する			
	評価指標	評価方法	目標
	新たな参加団体、およびユース世代の参加団体および参加者	目標に対する参加団体数、参加者	2団体、
<p>①将来的に期待される成果・効果(中・長期アウトカム)</p> <p>※事業が複数の場合は、事業ごとに分けて記</p>	事業参加者		
	<p>中高年齢層の参加が多かったが、幅広い年齢層の参加がこの事業の評価を確認することになる。</p> <p>都市部と農村部の往来をプログラム、サードプレイスの存在で交流が図れるようになる。</p>		
	事業実施団体		
	プログラムの継続が文化の継承に繋がり、参加団体間の事業者交流を進めることになる		
備中地域			

載	備中地域の農山村部の団体の参加が増え、都市部の住民が農山村の暮らしを支援することが流域圏の持続可能な未来へつながる。今回開設したサードプレイスへの参加者と地域課題への貢献が進み、新しいサードプレイスが開設される
⑫事業継続化に向けた取組及び事業展開の予定(資金確保の見通し等)	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムの情報発信と参加者の管理に多くの経費がかかる。 ・プログラムについては日常の暮らし文化の体験であるため、多額の参加費は見込めないがプログラムに見合う価格設定を考える。 ・企画運営管理も団体と関係者の地域への思いがあるからこそ無償で継続できている。今後の活動に関しては事務局側の通常活動と掛け持ちで、簡単には時間と労力を割く余裕があるかどうかにかかっている。 <ul style="list-style-type: none"> ・資金確保に関して、このような活動に対して資金提供してくれる民間事業者の支援が必要である。 ・人材育成のために多くの教育機関との連携が必要である。 ・都市部と農村部の関係人口に関しては都市部の生活者が関わりを意識できるつながりを実感するプログラムの開発が必要である。 ・都市部と農村部の対話・交流の場づくりが求められる。

<記入上の注意事項>

- 1 各項目は、簡潔かつ明瞭に記入してください。
- 2 「④補助回数」欄の2回目は、前年度に採択された事業を今年度も継続して実施する場合に選択ができます。
- 3 「⑤現状及び課題」欄は、事業実施の要因となる地域課題や問題点、社会的背景等について記入してください。なお、根拠となる統計データや当事者の声などがあれば、それも示してください。
- 4 「⑥事業目的」欄は、事業を通じて実現したいこと、目指す将来的な姿(社会、経済、生活、環境等)について、「⑤現状及び課題」、受益者(対象者)等を踏まえて記入してください。
- 5 「⑦事業内容」欄は、課題解決や「⑥事業目的」における位置づけ(狙い)とともに、概要、受益者(対象者)、実施地域、実施方法などを事業項目ごとに具体的に記入してください。また、天災地変、感染症等で事業が実施できない場合の対応(代替案の検討、事業縮小、事業中止等)についても併せて記入してください。なお、事業が複数の場合は、それぞれの事業ごとに内容を記入してください。
- 6 「⑧事業の条件及びアピールポイント」欄は、事業条件としている広域性又は先進性、先駆性、団体の持つ専門性やノウハウ等のアピールポイントについて具体的に記入してください。なお、先進性、先駆性は、他地域での先進例や成功例等もあれば、それも参考として記入してください。
- 7 「⑨今年度の事業による直接の結果(アウトプット)及びその評価指標・評価方法」欄は今年度の活動計画及びその評価指標・評価方法を記入してください。「⑩今年度に期待される成果・効果(短期アウトカム)及びその評価指標・評価方法」欄は事業実施により得られる今年度の利益や変化及びその評価指標・評価方法について記入し、「⑪将来的に期待される成果・効果(中・長期アウトカム)」欄は、事業を継続して行うことで、将来的に得られる利益や変化について記入してください。なお、事業が複数の場合は、⑨、⑩、⑪は事業ごとに分けて記入してください。
- 8 「⑫事業継続化に向けた取組及び事業展開の予定(資金確保の見通し等)」欄は、「⑥事業目的」や「⑪将来的に期待される成果・効果(中・長期アウトカム)」を踏まえ、翌年度以降に実施する予定の事業内容、組織体制、財源確保の手法、事業継続の工夫等について記入してください。
- 9 記入箇所が不足する場合は、必要に応じて行挿入等を行ってください。

別紙・・

流域圏で種を蒔く一日

備中で暮らす・町家 de クラス 2026 農業体験プログラム

備中町並みネットワーク 2026 年度

1. このプログラムが目指すもの

高梁川流域の中山間地では、農林業の担い手が急速に失われつつあります。これは農業生産の問題にとどまらず、森の保水・洪水緩和・水源涵養という自然環境保全の機能喪失につながっています。

このプログラムは、都市住民が「流域圏の農業の現場に身体でふれ、農業者と対話し、その後もつながりを持てる」という体験を設計するものです。参加者一人ひとりが「関係人口」としての最初の一步を踏み出すことが目標です。

▼ 2025 年度の実証より

2025 年度に 1 箇所です験的に実施した農業体験プログラム（種蒔き・地元食・農業者との対話）では、参加後も継続的に地域と関わりを持つ参加者が複数生まれました。この設計を 2026 年度は備中 5 箇所で開催する。

2. 一日の基本構造（全 5 箇所共通）

どの箇所でも以下の流れを基本とし地域の応じた時間を作ります。作物・食・語り手は各地域で異なります。

時間	内容	ねらい・ポイント
9:00～9:30	集合・オリエンテーション	農家本人が案内役。農地を歩きながら今日の作業と農場の成り立ちを話す。「説明会」にしない
9:30～12:00	午前の農作業	11 月の作業（種蒔き・定植・収穫）を農家と並んで行う。単純な繰り返し作業が「考える時間」を生む
12:00～13:30	地元食材による昼食・歓談	農家の台所または納屋での食事。「この材料はこの畑で採れた」という具体性が重要。品数より文脈
13:30～14:30	農業者の語りと傾聴	農業者が 15～20 分話す。成功談でなく「揺れながら続けている現実」を引き出す。
14:30～15:15	参加者との対話ワーク	問いを投げかけ、まず一人で書く時間をとり、隣の人と話す。全体共有は任意。正解のない場と明言する
15:15～16:00	次のアクション・解散	いくつかの選択肢を提示。強制せず、しかし用意する。農家への一言カードを書いて渡す

3. 午後プログラムの詳細設計

(1) 農業者の語り 13:30～14:30

農業者が話すテーマを以下の三点に絞ります。用意された言葉より、現実に沿った言葉の方が参加者の心に届きます。

- ① 自分がここで農業を続けている理由
- ② 10 年後にこの農地と自然をどうしたいか、不安は何か
- ③ 都市に住む人に一つだけお願いできるとしたら何か

「完璧に話さなくていい、迷いながら話してほしい」ことを前提に話してもらいます。ファシリテーターは聞き手に徹し、途中で補足や言い換えを行います。

(2) 参加者との対話ワーク 14:30～15:15

農業者の話を受けて、以下の三つの問いを順番に投げかけます。

「今日の体験の中で、一番身体に残っているのはどんな瞬間でしたか」

「農業者の話聞いて、自分の日常と重なると感じたことはありますか」

「もし来年またここに来るとしたら、何をしに来たいですか」

- ・まず一人で書く時間を3分取る（書くことで考えが整理される）
- ・隣の人と2～3分話す
- ・全体への共有は任意。「言いたい人だけ」にする
- ・正解のない場であることをファシリテーターが最初に明言する

4. 「次のアクション」の設計

参加後のつながりの回路を意図的に設計します。昨年の実証で「後日談」として関係人口が生まれた要因は、この回路が偶然あったことです。

選択肢	内容	農家側の負担
① 季節の便り登録	農家から年3～4回、農地の今を伝えるメッセージを受け取る（LINE・メール・ハガキ）	月1回程度の短い発信。農家が続けられる形を選ぶ
② 再訪の予約	翌春（田植え・種蒔き）の再訪プログラムの日程をその場で告知・仮予約受付	日程を1つ決めるだけでよい
③ 参加者同士のつながり	参加者間・農家との連絡先交換の時間を5分設ける	任意。強制しない

【農家への一言カード】

参加者にはがき大のカードを渡し「今日感じたことを農家へ一言」を書いてもらいます。農家がこれを後で読むことで「伝わった実感」を得ます。翌年もプログラムを続けたいと思う農家側の動機になります。

5. 5箇所地域タイプ別設計のヒント

共通構造を保ちながら、各地の農業の種類・農家の個性・季節の作物が自然に違いを生みます。その違いをそのままにしておくことが強みです。

地域タイプ	11月の作業例	食の例	対話テーマ例
平野・農村	玉ねぎ定植 ニンニク植え付け 白菜の収穫	農家の米・漬物 地元野菜の汁物	「街のすぐそこにある農業」 後継者の本音を聞く
中山間地	大根・黒豆の収穫 麦の種蒔き	郷土料理 干し柿・さつまいも・麦飯	「棚田と森のあいだで働く」 集落の人口変化の現実
上流・水源域	蕎麦の脱穀 冬野菜の種蒔き	蕎麦料理・山の幸 （鳥獣害の現実も含む）	「水源の村を知る」 農林業と水のつながり
沿岸・干拓地	葉物野菜の間引き 冬野菜の収穫	海と農地の食 魚と農家野菜の家庭料理	「海と農地のあいだで生きる」 農業衰退と海の栄養の変化
若い農業者	その農家の作物に合わせて 現地で決定	農家の日常に近い食卓	「なぜ農業を選んだか」 「10年後に何をしていたいか」

※ 各地の具体的な内容は農業者との事前打ち合わせで決定します。このテンプレートを持参し「どの作物で、どんな

話をしてもらえるか」を一緒に考える素材として使ってください。

6. 農業者への事前打ち合わせチェックリスト

各箇所を農業者と事前に確認。

【作業について】
<input type="checkbox"/> 11月に参加者（10～15名程度）と一緒にできる作業は何か
<input type="checkbox"/> 作業に必要な道具・服装・注意事項
<input type="checkbox"/> 雨天時の代替プランがあるか
【食について】
<input type="checkbox"/> 昼食を用意できるか、誰が担うか
<input type="checkbox"/> 地元食材で用意できるものは何か
<input type="checkbox"/> 食べる場所（台所・納屋・農地の一角など）
【語りについて】
<input type="checkbox"/> 農業者自身が話してもよいか（苦手な場合は聞き役を立てる形でも可）
<input type="checkbox"/> 話してほしい三つのテーマを事前に共有し、準備の負担を最小化
<input type="checkbox"/> 「完璧に話さなくていい」ことを伝える
【次のアクションについて】
<input type="checkbox"/> 季節の便りを続けられる形（LINE・メール・ハガキ）を農家と相談
<input type="checkbox"/> 翌春の再訪日程（候補日）を事前に農家と決めておく
<input type="checkbox"/> 農家への一言カードの保管方法

7. プログラム後の評価

以下の二点を各箇所終了後に記録します

- ① 参加者アンケート（5段階）：「今日の体験の後、この地域とまた関わりたいと思いましたか」
- ② 農家からのフィードバック：「参加者との対話の中で印象に残った言葉や反応」を口頭で聞き取りメモ

「何人かが後日またつながった」という後日談を、次年度の申請・報告書に実証として書き込める形で記録すること。
「どんなつながりが生まれたか」を言葉で残す。

このプログラムの根底にあること

種を蒔くという行為は、帰った後も「あの種は今どうなっているか」という気持ちを残す。収穫ではなく蒔く体験にこだわる理由はここにあります。参加者の心に「引っかかり」を残すこと。それがこのプログラムの最も重要な設計思想です。

.....

日 程 計 画 表

年月	事業内容	場所	規模等
R7.			
12月	企画会議 (2026年度の企画の確認)	定例会議の場所 (備中県民局及 び参加団体活動 場所)	団体関係者
1月	プログラム提案 (新規団体紹介)		
2月	プログラム提案 (新規団体紹介)		
3月	プログラム確定作業		
・	・		
・	・		
4月	プログラム確定作業 (データ詳細収集・写真・ 開催場所など)	プログラム実施 場所 定例会議の場所	
5月	プログラム確定 (事務局作業分担)		
6月	デザイン確定 (詳細データ確認・HP デザイン確 認)		
7月	冊子最終校正 (参加団体運営確認作業・担当確 認)		
8月	冊子印刷発注		
9月	冊子配布、HP 公開		
10月	参加者申込開始、冊子配布		
11月	参加者申込受付		
12月	事業開始～月末まで		
1月	振り返りと報告書データ収集・作成、経費精算 来年度計画会議 収支決算・報告書完成 (情報共有)		

<記入上の注意事項>

- 1 事業実施年度の年間スケジュール案を記入してください。
- 2 「場所」欄は、想定される実施場所を記入してください (例：〇〇市文化センター、△△市内)。
不明な場合、特定できない場合等は未記入で構いません。
- 3 「規模等」欄は、参加予定人数、印刷部数等数量的に想定される量を記入してください。不明な場
合は未記入で構いません。